

春になり暖かくなってきました。周りにはたくさんの花が咲いていて私たちの気分も良くなりますが、花は最後に実を結ぶ事ができないと意味がありません。いくら見栄えの良い花であっても同じです。種を蒔くときは花が咲く事だけを求めて蒔きません。種を蒔くのは実を収穫する事を信じて蒔いています。その中で古い種であれば良い実を結ぶ事はできません。種とはすなわちその実が残るための根底です。この根底が悪い場合、良い実を結ぶことができない事は理解できます。私たちもこの根底の部分がどのような状態にあるのか考えてみましょう。聖書には「神の国とその義を第一に求める(マタイ6:33)」事が書かれています。そして7章に入り①周りの人をさばかない②神にひたすら求めること③周りの人に愛を流す事が書いてあります。そして今回テキストである「狭い門から入り」ます。このように私たちが狭い門から入るためには順をおっていく事が大切です。私たちの周りにはどのような実を結んでいるのでしょうか。それを見ると自分の状況が理解できます。蒔く種をも与えて下さる神です(Ⅱコリ9:10)春は種を蒔く時期です。秋の収穫に向けて蒔きましょう。良い実を結ぶためには良い種を蒔かないといけません。手にしている種を蒔こうしていますが、良い種となっていますか。神の国とその義を第一としていない種を蒔こうとしてはいいのでしょうか。そのような種を蒔くのであれば、結果として実をみると悪い実となってしまいます。良い実を結ぶために①言葉を制御する(ヤコブ3:1～18)「平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。」とあるように、平和のために種を蒔くのです。平和となるために言葉を制御する事が教えられています。私たちが語る言葉が聖書の愛に土台をおいた言葉となっているか。周りの人を裁いているような言葉が出てきていないでしょうか。舌は制御するのが難しい器官であることは聖書に書いてあります。しかし私たちが良い実を結ぶために言葉を制御する事が必要です。裁くようなことをせず、愛と平和の言葉が出てくるようにしましょう。②歩みを制御する。私たちの足がどこへむかっているのか。何を探しているのでしょうか。神の国と神の義を第一とする"狭い門"から入る道を歩んでいるのか。それとも楽な方へ行ってしまう"広い門"に入ろうとしていますか。私たちの歩みの中で、今までしていた事を途中で止めてしまっていないでしょうか。順をおって書いた、求めたものを周りの人に流すという良い循環に入っているのでしょうか。私たちが狭い門から入る道からそれてしまっていたら意味がありません。自分をしっかり見張りましょう。③耳を制御する(ローマ10:8～21)聞いた事を信じて実践することが書かれています。ナアマン將軍の癒しも預言者の語られた事に従った時、神の癒しを体験しました。それはとても小さなことでした。ヨルダン川へ身を7回浸す事でした。そのように神さまは一人ひとりに分かるように祈り中で語る場合もありますし、周りにいる人を通して語っています。今は情報が氾濫しています。耳にすることは有益なものもあれば、反対に私たちを落ち込ませようとするものもあります。そのような中で耳を制御し、私たちにとって必要な事だけを心に残すようにしましょう。一番大事なことは私たち自身にその声を聞く気があるのかということです。神を愛する人々には神はすべての事を働かせて益として下さる方です(ローマ8:28～39)私たちが神を愛し、狭い門から入る事をし続けれるならば、良い実を結ばして下さいます。私たちの行動を制御し良い実を結びましょう。